令和元年度　第1回東区教育ミーティング　会議録概要

開催日時	令和元年7月 30 日(火)午後2時 00 分から午後3時 35 分まで
会　　場	東区プラザ　ホール
出 席 者	東区自治協議会委員 26 名(欠席4名) 教育委員：山倉教育委員，市嶋教育委員 事 務 局：教育長，教育総務課長，地域教育推進課長，学校人事課管理主事，学校支援課長補佐，教育職員課長補佐，生涯学習センター所長，東区教育支援センター所長，他3名 東区役所:区長，副区長，各課課長，中地区公民館長，中央図書館長補佐 傍 聴 者：2名(報道 1 名，市議会議員 1 名)
議　事	1　開会 2　教育委員挨拶(山倉教育委員，市嶋教育委員) 3　出席者紹介 4　意見交換(司会　東区教育支援センター所長) (1)令和元年度教育委員会の施策について(教育長による説明)
自治協委員	働き方改革のことになるが，学校で電話応対をする時間が決まり，自治協議会でも周知された。学校から保護者宛に何度も便りが出されている。が，まだ時間外に電話が鳴るのが現実と伺っている。夜なので，保護者が中心だろうが，留守番電話を付けてはどうか。付ける予定だとも聞いているが。
学校人事課管理主事	現在，光電話回線への改修が進んでいて，その電話には留守電機能が付いている。一斉には困難だが，順次改修していきたい。
自治協委員	学級の支持的風土づくりに力を入れていくということだが，今までにない画期的なことだと思っている。子どもたちには，どういう学級で生活していくかということは大問題だ。子どもたちが明るく伸び伸びと生活していける基盤になる。是非推進していってほしい。
自治協委員	新潟市の一貫教育の推進は大変よい取組。これまで，小学校と中学校の連携はうまくいっていたと思うが，今は，小中の連携だけでは不十分で，幼保との連携も密にしなければならない。小学校と幼保の教員の連携を密にし，多様な子どもたちを十分に把握して，受け入れていくとよいのではないか。強調して取り組んでほしい。
自治協委員	学校支援のための取組に，「学校事務支援員の配置」とあるが，詳しく教えてほしい。また，このことがどのように業務改善の推進，放課後に子どもたちと向き合う時間の確保につながっていくのか。
学校人事課管理主事	学校事務支援員は，大規模の小学校に昨年度から配置している。全校配布文書の印刷や学級担任が休憩時間に印刷機が混んでいて使えないことがあるので，事務支援員が授業中に印刷して使用時間まで間に合わせ，担任の業務改善につながっている。また，放課後の諸会議を設けない取組により，子どもたちとじっくり向き合う時間や，あるいは普段できないことをする時間にしようというこ

	とでこういう取組を進めている。
自治協委員	コミュニティスクールについてもう一度説明していただきたい。また，2020 年度から 21 年度でモデル校の実施，22 年度から全校実施とあるが，小中一緒か，別々か。
地域教育推進課長	コミュニティスクールは，地域と学校の連携の一手段。学校が考えている「目指す姿」と地域が考える「こう育てたい」という思いをつなぐ話合いの場を設定するのがコミュニティスクール。現在実施している地域と学校パートナーシップ事業も同じ機能を持っているが，より一層独立して，活性化させようという取組がコミュニティスクールである。国はコミュニティスクールの導入を進めていて，市は 22 年の全校実施に向け準備を進めている。来年度からのモデル校は，まだ決まっていない。担当課で準備を進めているが，小学校，中学校織り交ぜたかたちでのモデル校のお願いになる。
自治協議会委員	関連して，学校には今，評議員制度があるが，この中に含まれ，無くなっていくものなのか。
地域教育推進課長	学校評議員制度は，学校がその年に推進することを説明し，1年の終わりに成果を伝え，ご意見をいただくということになっている。この機能が全てコミュニティスクールの中に組み込まれる。そういう想定の下に準備を進めている。
自治協委員	学校教職員の多忙化解消で，「適正な部活動のための取組」とあるが，部活動指導員の配置は各学校統一か。また，指導員は地域の方か。
学校支援課長補佐	部活動指導員は，現在8名配置されている。部活動顧問の代わりに大会の引率もできる。この他に部活動エキスパートと呼ばれる部活の指導に当たる方が 54 名，さらにサポーターということで 40 数名の方が無償で部活指導に当たっている。地域の方もいれば，そのスポーツの専門家，その部活の指導経験のある教員OBもいる。
自治協委員	小学校の地域教育コーディネーターをしている。働き方改革に関して，小学校は 18 時以降に電話には出ないということになったが，かかってくることも多い。例えば 18 時前に学校から保護者にかけ，つながらなかったので折り返しの電話を依頼する。それに対して 18 時以降に保護者から電話が来ることもある。でも，ディスプレイに表示される番号では瞬時に判別できず，結果的に出ないこともあるようだ。また，ひまわりクラブにも関わっているが，ひまわりクラブは 18 時半まで子どもを預かっている。どうしても子どものことで確認を取りたい場合があっても，学校は 18 時を過ぎるとつながらなくなる。結局，翌日に連絡をとるが，先生方も授業中だと電話に出られない。留守番機能が早く付くとよい。
学校人事課管理主事	さまざまな課題があり，その都度学校で検討したり，学校人事課に相談したりという状況。今後，課題を集約し，改善できるところから改善していきたい。
自治協委員	教育とは少し離れた意見になるが，学校施設そのものについて要望したい。先日の地震の際，それぞれの学校が正に地域住民の命を守るために中心的な建物となっていることを今まで思っていた以上に感じた。抽象的な言い方になるが，今後，学校の改修工事をする場合，教育的機能に加え，地域住民の命を守

	るという観点から，災害に対する機能も含めて検討してはどうか。例えば，子ども中心のトイレを高齢者等も想定したつくりにしていくとか，予算的に厳しいかもしれないが，現実問題，災害が起きているとなると全く無視できない問題だろう。学校は，地域で唯一，命を守る避難場所となっている。改修を検討する際は，地域の意向も含めて検討できないものか。グラウンドの片隅に万が一に備えて井戸を掘るとか，いろんなアイデアが出てくることが期待できる。行政と地域と一緒になって施設づくりについて意見交換ができるとよいのではないか。校舎見取図に町内ごとの避難教室を示し，玄関に用意しておくとか，今はそこまで求められているのではないか。避難所運営も意識していってほしい。
自治協委員	幼保・小・中の連携は，これから大変重要だと思う。何かが起きてから対処するのではなく，未然防止のために連携していくことが大切。具体例として，牡丹山幼稚園，牡丹山小学校，木戸中学校が連携し，小さい子どもを持つお母さんを対象に勉強会を計画した。不登校について，子どもが大きくなってからではなく，小さいうちから未然防止の研修会をした方がよいという考えからだ。しかし，講師を招くにもその謝礼が必要だし，お母さんが子どもを連れて参加できるように，子どもの面倒を見てくれる人たちをお願いするにもその報酬が必要になる。その予算がない。一時はコミ協から出すことも考えた。結果的に，区役所と相談し，何らかの手当てをしていただいたようだ。連携事業を一層進めていくのであれば，助成金制度を設けるとか，連携事業を推進しやすくしていただけるともっとよいアイデアが出てくるのではないか。
教育総務課長	貴重なご意見ありがとうございました。幼保と小の連携はこれまでも取組があった。具体的なかたちでアプローチカリキュラム，スタートカリキュラムをそれぞれの園，学校で作成し，幼保と小学校で交流していくということが正に始まったところだ。今後，教員同士の研修会等も開きながら順次連携を進めていく。それ以外の地域での取組についても，今後どのような展開があるのかご意見を聴取しながら考えていきたい。
司会	2つめのテーマについて意見交換を進める。 (2) 地域・保護者・学校の連携について（地域教育推進課長による説明）
自治協委員	コミュニティスクールについて伺いたい。学校運営協議会を作って，学校運営に地域の方も入って考えていくということになるのか。地域と学校パートナーシップ事業の延長がこのコミュニティスクールだということなのか。それとも見附市でやっているようなものなのか。新潟市版はどっちか。私は，今のままでよいと思っていて，コミュニティスクールで学校運営協議会ができ，声の大きい地域の人の考えが通ってしまうようなことになると，学校現場が困ってしまうのではないかと心配している。
地域教育推進課長	一つの例えだが，地域と学校の連携・協働は，車を動かすことに似ている。車を動かすには，エンジンがあり，タイヤがあり，その推進力によって動く。ただ，そのエンジンだけではどこに進むか分からない。目的地に向かってハンドルを操作しなければならない。これまでは，エンジン役もハンドル役もパートナーシップ事

	業が担っていた。これから先は，ハンドル役をコミュニティスクールが担うと考える。学校が，どんな子に育てたいのか，地域の皆さまはどのような将来像を描き，子どもたちや学校に期待していくのか，互いに語り合っていく必要があると思っている。保護者の皆さんから子どもたちへの期待の話もあるだろう。そういった中で，学校の役割は何か，地域の皆さんにお願いすることは何か，保護者にしていただくことは何か，しっかりと語り合いながら，地域との連携・協働を進めていくというのが，コミュニティスクールというハンドル役だと思っている。 国は，コミュニティスクールとパートナーシップ事業のような地域と学校協働活動は，一体的に進めなさいと言っている。パートナーシップ事業を継続しつつ，コミュニティスクール制度を生かしていきたいと思っているし，役割をはっきりさせることで，学校が本来すべきこと，地域の方にしていただくこと，保護者の方にしていただくことを明確にすることが，これからの地域活性にもつながっていくものと思っている。
山倉教育委員	昨年度，千葉のコミュニティスクールを視察した。私も学校評議員をしているが，学校評議員は，校長の説明に対して質問をする。視察したコミュニティスクールは，そこから一歩踏み込み，「グラウンドにトイレがあった方がいいのではないか」という要望を出している方もいた。「新しく来た英語の先生は授業を見ているととてもいいですね」と言う方，「学校にこういうことがあったらいいよね」とか，「ここが弱いからこういう先生に来てもらいたい」とか，地域の要望を声に出している姿を見て，そんなに難しいことではないのかなと感じた。学校評議員会は現状年2回だが，学校運営協議会の回数はもう少し多くなると聞いている。視察の実感として，あまり難しく考えなくてもできるのではないかと思っている。
教育総務課長	大きい声の方の意見が通ることが心配だと言うことだが，制度的な面については，正に当課で検討しているところ。学校運営協議会の主な役割として3つ上がっている。細かいところについては，よりよい制度になるように，教育委員からの報告も踏まえながら検討していきたい。
自治協委員	パートナーシップ事業については，全国でもここまでやっているところは珍しいと聞いている。実際見ていても，とても成果が上がっているし，学校が変わりつつあるし，高く評価したい。コミュニティスクールについては，学校経営の中核に入ってくる。その辺の難しさはやはりあるのではないかと思っている。モデル校でしっかり検証しながら，進めていただきたい。 一つだけ心配なことは，評議員は全くのボランティアである。その割には，さまざまな調査も来る。コミュニティスクールは，予算化はされる予定か。評議員会のお茶代にしても校長の手弁当でやっているのが実情。コミュニティスクールは，そうはいかないのではないか。予算化をきちんとしないと定着していかないのではないか。
教育総務課長	予算化については，実際に学校運営協議会を動かそう，満足のいく水準でというと，やはりお金はかかるもの。市の財政当局と少しずつ話を始めている。他の政令市の例を見ると，報酬の有無も異なる。うまくやっている事例等を参考にしな

	がら，詰めていきたい。
自治協委員	学校現場では，評議員がいる。教育推進会議がある。地域教育コーディネーターもいる。さらにそこに，コミュニティスクールという新しい制度もできる。地域との窓口がいくつもあるようなかたちになると，逆に実効性に影響があるのではないか。従来のものをそのままに，加えるような捉えでよいか。それともある程度整理していこうという考えはあるのか。
教育総務課長	学校評議員会は，将来的には学校運営協議会に含ませるようなかたちを想定しているが検討段階である。他のさまざまな会議体は，ある程度学校運営協議会に整理統合できるところはそうしたいと考えている。教職員の負担も統合で減ずることができればと考えている。
自治協委員	パートナーシップ事業は，ボランティアの活躍にとても助けられている。述べボランティアが 1 校平均 2,000 人との説明があったが，木戸小は 4,000 人いる。日常的に，朝から晩までいろいろなことをしてもらっている。子どもたちの中には，自己中心的な子もいて,その子たちを見てくれるのもボランティア。こういった学校をよくご存じの方から，コミュニティスクールに参加してもらいたいという思いがある。
自治協委員	パートナーシップ事業がとても成果を上げている。事業数も増え，ボランティア数も述べ 33 万人。学力が向上し，社会性も育成され，子どもたちの自己肯定感も高まってきており，とよい方向に行っていると思う。そこで，コミュニティスクールに移行していく中で，方向がいくつかある。一つは，地域の方々が学校に入って，学校教育活動を充実させる。一つは，地域の方々が学校の中で互いに高め合っていく(例:コンピュータの研修)。それから，地域のやっている情報を発信していくこと。これらは大変よいことだ。一方で，学校が外へ出て行く，学校が地域へ貢献していく，それをすごく期待している地域の声がある。コミュニティスクールもあるので，今後強調していく必要があろう。何もしていないわけではない。東区で言えば，先日『区民ふれあい祭り』があった。中学生が多数参加して合唱部が歌声を聞かせたり，吹奏楽部が演奏したり，小学生を相手に手作りのしおりを一緒につくったり，キーホルダーづくりを教えたり･･･。こういう姿を是非紹介していってほしい。それが，コミュニティスクールの活動に近付いていくことになるのではないか。
自治協委員	パートナーシップ事業の成果の2つめ，教職員の意識調査結果のデータを見て，少し気になる。子どもたちも地域の方も非常に成果を得ている。特に地域の方は，自分たちの生きる力をもらい非常に喜んでいることがうかがえる。ところが，「学力向上につながっているか」という問いに対し，教職員の半分以上が「ややあてはまる」または「あてはまらない」と回答している。少ししっくりしないものを感じているようなデータかと思われる。学力の向上につながるような地域のかかわりというものはあるのか考えさせられた。
地域教育推進課長	学力向上につながっているところも多々ある。ある小学校では，掛け算九九を聞いて褒めてあげる取組をしている。それだけで子どもたちは自信をもって，次

	に挑戦する。だから，話を聞いて褒めてあげるボランティアがいることで学力の向上につながっていると評価している教員も多い。調査は，小中一緒なので，中学校では，英語や数学となるとボランティアも入りにくいので，教職員の評価が若干低くなっているのかもしれないが，肯定的評価，成果が上がっていると考えている。
自治協委員	地域と学校を結ぶネットワークづくりで，私たちの地域は，中学校を中心に「未来づくり委員会」を立ち上げた。中学生が主体となって，地域課題の解決に向けて3年前からやっている。昨年からは，一番の課題である「あいさつ運動」をやろうということで，青少年育成協議会はじめ，自治会長・役員が通学路にのぼりを立てて，春・秋1週間実施する。今年は，中学生が各小学校に5，6人ずつ出向き学校前であいさつ運動を実施している。地域の安心・安全のもとになっている。継続したい。ただ，問題は，PTAの参加が少ない。仕事で忙しいのだろうとは思うが，PTAの顔が見えてこない。残念。どうしたらよいのか教えていただきたい。
自治協委員	これは永遠のテーマだと思う。自身もPTAをやっていたとき，週末に開催したり，夜にやったり，給食を絡めたり･･･，いろいろしたけれど来るのは同じ人ということで，私も教えていただきたい。 ところで，東区は，安心・安全マップづくりがとても進んでいる地域だと伺っている。立正大学の小宮先生曰く，ホットスポット＝入りやすくて見えにくいところが一番危ない。これを子ども自身が分からなくてはいけない。中野山小学校は，入りやすいけど見えづらいところを子どもが探して，写真に撮り，校内に飾り，それを子どもたち自身が縦割り班で教えていく。この活動が素晴らしいと言われた。遊具の隣にあるベンチも，日本は遊具の方に向かっているが，海外では外側に向かっている。不審者が，遊んでいる子と接触しやすい作りなのか，否かなどもあるらしい。東区の安心・安全マップはすばらしいということを教育委員にもお伝えしたかった。
自治協委員	地域の学校支援ボランティアとして長年関わっているが，やはり高齢化が進んでいる。地域といっても，一部のお年寄りの力が本当に大きいのが現状ではないか。これからの課題として，いかにして地域の人たちを取り込んでいくのか，コーディネーターだけではなく，若年のボランティアの発掘が大切なのではないかと思う。子どもたちを一丸となって育てていくんだということで，行政にもお願いしたい。
自治協委員	コーディネーターが以前は3人いたが，今は1人体制。2つのコミ協を抱えている校区なので，1人では密に動けない。校長にもお願いしたのだが，是非コーディネーターの人数を増やしていただきたい。
司会	課題が大きく4つくらい挙げられた。①コミュニティスクール制度に対する期待と不安　②学校（児童生徒）が，校外・地域へ出て行って活躍する，貢献する場が増え，そのことがより広報されていくこと　③連携していく上で，家庭，PTA，保護者の年代の参加が乏しい　④ボランティアが高齢化してきている。③と併せて

新たな人材の育成というか確保が必要。

次回のミーティングでは，これらのことに対する取組や成果等についてさらに情報を共有した上で，意見交換を深めていきたい。

ここで，教育委員より本日の感想やご意見をお願いしたい。

山倉教育委員　たくさんのご意見をいただきありがとうございました。若いボランティアが必要ということについては，同感だ。地元でボランティアをしていると，いつも同じ人が出てきていて，若い人がいない。パートナーシップ事業の「学校における地域の学びの拠点づくり」に期待している。地域の人が学校にどんどん入り，まずは学校に慣れてもらう。子どもたちと親しくなって，次はボランティアに出てみようかなと思う人が1人でも2人でも出てきてくれることを期待している。

コミュニティスクールへの要望，パートナーシップ事業，教員の多忙化解消，一貫教育･･･いろいろなご意見をいただいた。地域と学校がこれからもどんどんつながっていくことが大事で，つなぐ役割のコーディネーターも重要になり，1人では大変だという意見もあったが，その通りだと思う。協力し合ってボランティアをしていきたい。人がつながることが大切で，日頃から顔の見える関係をつくっていくことが大切。これからも自治協委員の皆さま，子どもたちのためによろしくお願いします。

市嶋教育委員　働き方改革やコミュニティスクールについて多くの意見をいただいた。保護者・地域・学校との連携を深めていくのであれば，誰もがこの制度について分かる説明があったり，お互いにやっていることが理解できる関係作りが大事だと感じた。学校施設の在り方に関するご意見もあったが，ただお願いし合うような関係となると負担に感じることもある。互いに利益を感じるような関係性が必要なことだと思う。地域にとって学校が非常に便利であり，学校にとっても地域をうまく利用する，というと語弊があるが，互いに共生していく関係をコミュニティスクールで作り上げていかなければならないと思った。いろいろな会合に出ると，同じ人ばかりが出ている。特定の人だけではなく，持ち回りが良いとは言えないが，多くの人から関わってほしい。親も，1度関わってみると当事者意識が生まれるのではないか。そのことが，コミュニティスクールが素晴らしいものになっていくことにつながっていくのではないか。いろいろ勉強になった。感謝します。

5　閉会　東区自治協議会会長あいさつ